

利用者の維持・拡大

健全化計画策定検討委員会からの提言

アストラムラインの利用者数及び運輸収入は、平成13年度に開業後始めて前年度を下回り、平成14年度も引き続き減少することが見込まれる。

この減少傾向に歯止めをかけ、利用者数の増加を図る方策を積極的に展開していくことが長期的な経営健全化に向けた大きな柱といえる。

通学利用者の維持方策としての販売強化策の検討・実施

フィーダーバスの都心部直通便化の影響緩和とフィーダーバスの利用促進

マイカー利用からの転換需要促進

日中時間帯の需要喚起方策

沿線集客施設との連携

企画力の充実

弾力的な運賃制度の導入による利用促進

これまで当社では、需要喚起による利用者の維持・拡大に積極的に取り組んできたが、大幅な収入増に繋がる抜本的・効果的な方策とはなっていない。

今後は、利用者の理解と支持を得るよう、当社の経営状況や経営健全化方策の進捗状況について積極的な情報開示を行い、利用喚起のPR活動を展開するとともに、利用者に親しまれ、地域のシンボルとなるような交通機関を目指して、沿線地域との関係を一層密にし、アストラムラインに対する愛着を高め、積極的な利用につなげる意識の高揚を図るとともに、利用者からの声を採り入れることのできる双方向の情報交換体制づくりと、利用者ニーズを各種増収策の実施につなげていく企画力を充実することが重要であることを念頭に、次のとおり具体的な方策を検討・実施していく。

通学利用者の維持方策としての販売強化策の検討・実施

- ・ 毎年度、大学・高校の新生をターゲットに据えての学校への訪問販売
- ・ 新生オリエンテーション冊子への宣伝広告掲載
- ・ 販売強化ツールとしてのアストラムラインの有利性をPRするリーフレットの作成
- ・ 販売促進ツールとしての景品やオリジナルグッズの付与
- ・ 学校イベントへの協賛、学生の作品展示や発表の場の提供・協力
- ・ 学校完全週休2日制の導入を踏まえた定期割引率の改定、通年定期の導入の検討

フィーダーバスの都心部直通便化の影響緩和とフィーダーバスの利用促進策

- ・ アストラムラインとフィーダーバスは、お互いの接続により連続した一つの公共交通機関としての役割を担っており、相互の利便性の向上が、ひいては公共交通全体の利用者増につながるという認識により、乗り継ぎ利便性向上を図るため、各種方策の実施可能性について、当社とバス事業者及び都市交通政策者（道路管理者・交通管理者）が協議する場を設置するよう働きかけ

- ・ バス事業者と協調して、乗り継ぎ定期を継続
- ・ 利用者サービスの一層の充実を図るため、昼間時間帯でのフリー乗降区間について、利用者ニーズを踏まえつつ、路線・区間の拡大や夜間帰宅時間帯での実施可能性について、道路管理者、交通管理者、バス事業者と協議・検討
- ・ アストラムラインの定時性を都心部直通バスに対するセールスポイントに、従来の乗り継ぎダイヤ表を使用しやすく改善し、沿線団地・家庭に定期的に配付

マイカー利用からの転換需要促進

- ・ 遊休地の有効活用や大型商業施設等との連携によるパークアンドライドの一層の推進の可能性について、行政と協力して検討

日中時間帯（輸送能力に対して需要の少ないオフピーク時間帯）の需要喚起

- ・ 沿線に増加傾向にある高齢者等を対象とした、駅を起点としたウォーキング・観光コースの設定や、沿線施設を紹介したチラシ・ガイドブックの作成・配架
- ・ 定期利用者ではない主婦層に対する割引率等を勘案した日中時間帯の買い物定期券の導入及びデパート・小売業・映画館等の商業施設等との割引セット券の販売検討

沿線集客施設との連携

- ・ ビックアーチにおける大規模イベントの開催・誘致など、沿線の集客施設との利用促進策を行政と協力して検討

企画力の充実

- ・ 利用者の維持・拡大方策の検討・実施にあたり、利用者の理解と支持を得るよう、当社の経営状況やアストラムラインの優位性等を積極的に情報開示するため、アストラムリビング等の情報誌の活用や、ホームページの開設など、PR活動を強化
- ・ 利用者の声を幅広く取り入れるため、アンケートの実施や、ホームページを活用したモニター制度の導入など、双方向の情報交換体制を構築
- ・ 他社や他業種の事例及び体制の研究や、社内公募による全社員からの提案制度など、会社の企画力を高めるとともに、それらを迅速かつ的確に事業へと反映させる体制の構築

弾力的な運賃制度の導入による利用促進

- ・ 当面の対応として、アストラムライン単独のオフピーク通勤カード、日中ディスカウントカード、高齢者特別割引カード等の特別割引カードの導入について、減収につながらないことを利用者アンケートや社会実験等で検証のうえ、有効性、実現可能性について検討
- ・ 将来的には、広島都市圏におけるJR、路面電車、バス等の公共交通全体の連携によるICカードの導入を視野に入れて対応